ワクチン情報文書

A 型肝炎ワクチン：
知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。www.immunize.org/visを見てください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

A型肝炎ワクチンは**A型肝炎**を予防することができます。

A型肝炎は深刻な肝臓の病気です。通常は、感染者との密接な個人的接触を通じて、または感染者の少量の排泄物（糞便）で汚染された物体、食品、または飲料から知らないうちにウイルスを摂取したときにうつります。

成人がA型肝炎にかかったときによく見られる症状には、倦怠感、食欲不振、胃痛、吐き気、黄疸（皮膚や目の白い部分が黄色くなること、濃い色の尿が出る、褐色の便が出る）などがあります。6歳未満の小児の大半には症状がありません。

A型肝炎に感染した人は、症状がない場合でも、他の人に病気をうつしてしまう場合があります。

通常、ほとんどのA型肝炎の感染者は数週間後にこれらの症状から完全に回復し、持続的な肝障害を発症することはありません。まれに、A型肝炎は肝不全を引き起こし、死に至ることがありますが、これは、50歳以上の高齢者や他の肝臓疾患を持つ人に多くみられます。

米国では、A型肝炎ワクチンにより、この病気はあまりみられなくなりました。しかし、ワクチン未接種の人々の間では、A型肝炎の流行は依然として起こっています。

2. A 型肝炎ワクチン

小児はA型肝炎ワクチンを2回接種する必要があります。

- 1回目の接種：生後12～23か月
- 2回目の接種：1回目の接種から少なくとも6か月後

生後6～11か月の小児でA型肝炎ワクチンの接種が推奨されている米国外の国に旅行する場合は、旅行前に1回目のA型肝炎ワクチンを受ける必要があります。その場合でも、小児の長期的な感染予防のため、依然として推奨年齢の時点で2回の接種を受ける必要があります。

2～18歳の年長の**小児および青年**で、以前に予防接種を受けていない場合は、予防接種を受ける必要があります。

以前にA型肝炎ワクチンを接種したことがなく、A型肝炎の感染予防を希望している**成人**も、ワクチンを接種することができます。

A型肝炎ワクチンは、以下の人にも推奨されます。

- 海外に渡航する旅行者
- 他の男性と性的接触を持つ男性
- 注射薬物または非注射薬物使用者
- 職業上の感染リスクがある人
- 海外から迎えた養子と密接な接触が予想される人
- ホームレスを経験している人
- HIV感染者
- 慢性肝疾患のある人

さらに、以前にA型肝炎ワクチンの接種を受けたことがなく、A型肝炎感染者と直接的に接触のあった人は、曝露後2週間以内にできるだけ早くA型肝炎ワクチンを接種する必要があります。

A型肝炎ワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

U.S. Department of Health and Human Services
Centers for Disease Control and Prevention

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- **過去にA型肝炎ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、**または**重度の生命を脅かすアレルギーがある**

場合によっては、担当の医療従事者がA型肝炎ワクチンの接種を次回の来院まで延期するように判断する場合があります。

妊娠中または授乳中の人でA型肝炎にかかるリスクがある場合、ワクチン接種を受ける必要があります。妊娠または授乳を理由に、A型肝炎ワクチンの接種を避けるべきではありません。

風邪などの軽い病気にかかっていても、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してからA型肝炎ワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- A型肝炎ワクチン接種後には、注射した部位の痛みや腫れ、発熱、頭痛、疲労感、食欲不振などの反応がみられることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら?

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、**9-1-1**に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System(ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにアクセスいただくか**www.vaers.hhs.gov**、**1-800-822-7967**までお電話ください。*VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。*

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program(全米予防接種傷害補償プログラム: VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト**www.hrsa.gov/vaccinecompensation**をご覧になるか、**1-800-338-2382**までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには?

- 担当の医療従事者にお尋ねください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイト**www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines**をご覧ください。
- Centers for Disease Control and Prevention(疾病管理予防センター:CDC)にお問い合わせください。
  - 電話 **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)**または
  - CDCのウェブサイト**www.cdc.gov/vaccines**をご覧ください。

Japanese translation provided by Immunize.org